

科目名	看護学概論		単位(時間)	1(20)	28期生	DP
担当講師名	土井 恵子[看護師]				1年	1・2・3
					前期	
ねらい	看護の基本概念を学ぶとともに、看護の歴史的変遷や社会における看護の役割、機能の重要性を理解する。さらに看護一般の概念や看護の本質について学ぶ。					
科目目標	①看護の本質と看護理論、および看護の提供者について理解できる。 ②看護の対象と健康について理解できる。					
授業内容	次	内容			担当者	備考
	1 2	看護とは	1. 看護の定義 2. ケアリング 3. 看護の変遷		土井	講義
	3 4 5 6	看護理論と主要概念	1. 看護理論家にもみる主要概念 2. 看護理論をもとに看護の本質を考える 3. 看護理論を活用した看護の提案			講義 演習
	7	看護の対象と健康	1. 看護の対象の理解 2. 健康のとらえ方と国民の健康状態			講義
	8 9	社会と看護	1. 看護サービス提供の場 2. 看護をめぐる制度と政策			講義
	10	試験・まとめ				
テキスト	系統看護学講座 基礎看護学1 看護学概論 (医学書院) 看護職の基本的責務 (日本看護協会出版会)					
学習を支える 情報	1. 看護理論についてグループワークを行いながら、看護を学びます。 2. 教科書を熟読しながら、学習をすすめていきましょう。 3. 厚生統計協会「国民衛生の動向」や厚生労働省ホームページを活用しましょう。 <参考図書>看護六法					
評価	筆記試験で評価する。				筆記試験	100
					合計	100

科目名	基本技術 I		単位 (時間)	1 (30)	28期生	DP
担当講師名	赤穂 美紀 [看護師] 山口 美紀 [看護師]				1年 前期	1・2・4
ねらい	患者の身体状況を把握できる基本的知識とフィジカルアセスメントの技術を身につけ、健康状態の評価とマネージメントできる能力を養う。					
科目目標	①看護記録・報告の目的・機能が理解できる。 ②コミュニケーションの意義・方法がわかる。 ③安全確保と感染防止のための基礎知識がわかる。 ④フィジカルアセスメントの基礎知識と基本技術がわかる。					
授業内容	次	単元	内容		担当者	備考
	1	看護技術の概念と看護記録	1. 看護技術とは何か 2. 科学的根拠と安全に基づく技術 3. 看護記録の目的と機能 4. 看護記録の構成		赤穂	講義
	2 3	コミュニケーション	1. 看護場面におけるコミュニケーション 2. 関係構築のためのコミュニケーションの基本*		赤穂	講義 演習
	4	安全確保の技術	1. 安全確保の基礎知識 2. 看護自己の構造と防止の視点 3. 看護事故防止の対策 (KYT)		山口	講義
	5 6	感染防止の技術	1. 感染防止の基礎知識 2. 標準予防策 3. 感染経路別予防策 4. 感染性廃棄物の取り扱い 5. 無菌操作*		山口	講義 演習
	7 8 9 10 11 12 13 14	フィジカルアセスメント	1. ヘルスアセスメントとフィジカルアセスメント 2. フィジカルアセスメントの意義と看護 3. バイタルサインの観察とアセスメント 1) バイタルサイン測定* 2) 生体情報のモニタリング 4. フィジカルイグザミネーションの基本技術 (問診、視診、触診、聴診、打診) 5. 系統別のフィジカルアセスメント技術 1) 消化器系* 2) 呼吸器系* 3) 循環器系* 4) 神経系*		山口	講義 演習
	15	試験・まとめ				
	テキスト	系統看護学講座 基礎看護学2 基礎看護技術 I (医学書院) 系統看護学講座 基礎看護学3 基礎看護技術 II (医学書院) 看護の統合と実践2 医療安全 (医学書院) 根拠と事故防止からみた基礎・臨床看護技術 (医学書院) 看護が見える③フィジカルアセスメント (メディックメディア)				
学習を支える情報	1. すべての看護に共通する基本を学びます。 2. 知識や机上の学習だけでは習得できません。根拠に裏付けされた確実な技術を身につけられるよう、反復練習しながら学習していきましょう。 3. *は演習を行います。 4. コミュニケーションはすべての学内演習で体験しながら、学んでいきましょう。					
評価	筆記試験で評価する。				筆記試験	記録・コミュニケーション (15) 安全感染 (15) フィジカル (70)
					合計	100

科目名	基本技術Ⅱ		単位（時間）	1(30)	28期生	DP	
担当講師名	赤穂 美紀 [看護師]				1年	1・2・3・4	
					前期		
ねらい	対象の健康障害を理解し、対象の願いに沿った看護を科学的根拠をふまえて実践するための知識と実践力の基礎を習得する。						
科目目標	根拠に基づく看護の展開方法が理解できる。						
授業内容	次	単元	内容		担当者	備考	
	1 2	看護過程とは	1. 看護過程の構成要素 2. 看護過程を展開する際に基盤となる考え方		赤穂	講義	
	3 4 5 6 7 8 9 10 11 12 13 14	患者のより良い状態を目指し根拠に基づいた看護	患者に関心に向け、コミュニケーション技術を持ち、その人全体を把握する。得られた情報の意味づけをし、根拠に基づいた看護を考える。		赤穂	講義 演習	
	15	試験・まとめ					
	テキスト	系統看護学講座 基礎看護学2 基礎看護技術Ⅰ (医学書院)					
	学習を支える情報	1. パフォーマンス課題が提示され、看護過程の展開技術（問題解決の思考過程）を学びます。 2. パフォーマンス課題をとおして、6つの力（気づく力・観察力・クリティカルシンキング力・行動計画を立てる力・実行に移す力・客観的に評価する力）を身につけましょう。					
	評価	パフォーマンス課題については、ルーブリックにより総合的に行う。 パフォーマンス課題の評価日の8時50分までに課題の提出がない場合は評価対象とならない。 パフォーマンス課題・筆記試験、それぞれが60%以上の評価が単位取得の条件となる。				筆記試験	70
						パフォーマンス課題	30
						合計	100

科目名	生活援助技術 I		単位(時間)	1(30)	28期生	DP
担当講師名	竹中 絵里子 [看護師] 田中 恵美 [看護師]				1年	1・2・4
					前期・後期	
ねらい	対象の安全で安楽な環境を整え、日常生活を支える基本となる看護技術を学び、習得することで実践力の向上を目指す。また、看護の対象を生活者と捉え、その日常生活に合わせた援助をするために環境を整えるための看護技術と、活動・休息の援助のための看護技術の基本を学ぶ。					
科目目標	①環境を整えるために必要な基礎的知識を理解し、援助技術を習得できる。 ②活動・休息の援助のために必要な基礎的知識を理解し、援助技術を習得できる。					
授業内容	次	単元	内容		担当者	備考
	1 2 3 4 5	環境を整える技術	1. 環境とは 2. 病室環境のアセスメント 3. 療養環境の調整と整備* 1) 環境整備 2) 臥床患者のリネン交換 4. 環境の意義と看護		竹中	講義 演習
	6 7 8 9 10 11 12 13 14	活動と休息の援助技術	1. 基本的活動の援助 2. 活動と休息(睡眠)のアセスメント 3. 活動と運動を促す援助 4. 休息と睡眠を促す援助 5. 移動・移送の援助 1) 体位変換* 2) 車いす* 3) ストレッチャー* 6. 安楽を保つための援助 1) ポジショニング* 2) リラクゼーション* 3) 褥法* 7. 活動・休息の意義と看護		田中	講義 演習
	15		試験・まとめ			
テキスト	系統看護学講座 基礎看護学3 基礎看護技術Ⅱ (医学書院) 根拠と事故防止から見た基礎・臨床看護技術(医学書院)					
学習を支える情報	1. 患者の基本的ニーズを捉えその人の生活を整える技術を学びます。 2. 日常生活を送る中で患者にとっての必要な援助とは何か考え、その人に合った方法、留意点を考えます。 3. 患者のセルフケア能力の不足を補うだけでなく、状態にあった援助を実施していきます。 4. 適時、グループで意見を交換しながら、患者の思いも大切に考えていきましょう。 *は演習を行います。					
評価	筆記試験・技術試験、それぞれ60%以上が単位取得の条件となる。 技術を伴う演習は、全て出席することが試験を受ける条件となる。				筆記試験	環境(20)
						活動(40)
					技術試験	20
					合計	100

科目名	生活援助技術Ⅱ		単位(時間)	1(30)	28期生	DP
担当講師名	赤穂 美紀 [看護師]				1年	1・2・4
					前期・後期	
ねらい	対象の安全で安楽な環境を整え、日常生活を支える基本となる看護技術を学び、習得することで実践力の向上を目指す。また、看護の対象を生活者と捉え、その日常生活に合わせた援助をするために必要な清潔・衣生活の看護技術の基本を学ぶ。					
科目目標	清潔と衣生活の援助のために必要な基礎的知識を理解し、援助技術を習得できる。					
授業内容	次	単元	内容	担当者	備考	
	1 2 3 4 5 6 7 8 9 10 11 12 13 14	清潔・衣生活の援助技術	1. 清潔・衣生活のアセスメント 2. 清潔行動・衣生活の自立困難な人への援助 1) 入浴・シャワー浴* 2) 清拭* 3) 寝衣交換* 4) 洗髪* 5) 部分浴* 6) 整容* 7) 口腔ケア* 8) 陰部洗浄* 6. 清潔と衣生活の意義と看護	赤穂	講義 演習	
	15	試験・まとめ				
テキスト	系統看護学講座 基礎看護学3 基礎看護技術Ⅱ (医学書院) 根拠と事故防止から見た基礎・臨床看護技術(医学書院)					
学習を支える情報	1. 患者の基本的ニーズを捉えその人の生活を整える技術を学びます。 2. 日常生活を送る中で患者にとっての必要な援助とは何か考え、その人に合った方法、留意点を考えます。 3. 患者のセルフケア能力の不足を補うだけでなく、状態にあった援助を実施していきます。 4. 適時、グループで意見を交換しながら、患者の思いも大切に考えていきましょう。 *は演習を行います。					
評価	筆記試験・技術試験、それぞれ60%以上の評価が単位取得の条件となる。 技術を伴う演習は、全て出席することが試験を受ける条件となる。			筆記試験	80	
				技術試験	20	
				合計	100	

科目名	生活援助技術Ⅲ		単位(時間)	1(20)	28期生	DP
担当講師名	田中 恵 [看護師]				1年	1・2・4
					前期・後期	
ねらい	対象の安全で安楽な環境を整え、日常生活を支える基本となる看護技術を学び、習得することで実践力の向上を目指す。また、看護の対象を生活者と捉え、その日常生活に合わせた援助をするために必要な食事・排泄の看護技術の基本を学ぶ。					
科目目標	①食事の援助に必要な基礎的知識を理解し、基本技術を習得できる。 ②排泄の援助のために必要な基礎的知識を理解し、援助技術を習得できる。					
授業内容	次	単元	内容		担当者	備考
	1 2 3 4	食事の援助技術	1. 食事と栄養のアセスメント 2. 治療食、療養食 3. 嚥下障害のある人への援助* 4. 非経口的栄養摂取の援助 1) 経管・経腸栄養法 2) 経静脈栄養法 5. 食事と栄養の意義と看護		田中	講義 演習
	5 6 7 8 9	排泄の援助技術	1. 排泄のアセスメント 2. 自然な排泄を促す援助 3. 自然な排泄が困難な人への援助 1) 洗腸* 2) 一時的導尿* 4. 排泄の意義と看護		田中	講義 演習
	10	試験・まとめ				
テキスト	系統看護学講座 基礎看護学3 基礎看護技術Ⅱ (医学書院) 系統看護学講座 人体の構造と機能3 栄養学(医学書院) 根拠と事故防止から見た基礎・臨床看護技術(医学書院)					
学習を支える情報	1. 患者の基本的ニーズを捉えその人の生活を整える技術を学びます。 2. 日常生活を送る中で患者にとっての必要な援助とは何か考え、その人に合った方法、留意点を考えます。 3. 患者のセルフケア能力の不足を補うだけでなく、状態にあった援助を実施していきます。 4. 適時、グループで意見を交換しながら、患者の思いも大切に考えていきましょう。 *は演習を行います。					
評価	筆記試験・技術試験、それぞれ60%以上の評価が単位取得の条件となる。 技術を伴う演習は、全て出席することが試験を受ける条件となる。				筆記試験	食事(40) 排泄(60)
					合計	100

科目名	看護倫理	単位(時間)	1(20)	28期生	DP
担当講師名	渡邊 京子 [看護師 非常勤講師]			1年	1. 2. 4
				前期	
ねらい	現代社会と倫理について学ぶと共に、倫理の歴史的経緯と看護実践の倫理的問題を知る。また、倫理的問題に対しての看護師の役割について理解し、看護実践に活かすための基礎的能力を養う。				
科目目標	看護実践における倫理観を学ぶ。 看護倫理について知り、看護実践における倫理的問題について考える。				
授業内容	次	単元	内容	担当者	備考
	1 2	1. 現代社会と倫理	1. 倫理について 2. 職業倫理としての看護倫理	渡邊	講義 グループ ワーク
	3 4	2. 医療をめぐる倫理の歴史的経緯と看護倫理	1. 患者の権利とインフォームドコンセント 2. 患者の意思決定支援と守秘義務 3. 現代医療における様々な倫理的問題 4. 医療専門職の倫理規定		
	5 6 7 8 9	3. 看護実践における倫理問題への取り組み	1. 看護の本質としての看護倫理 2. 医療をめぐる倫理原則とケアの倫理 3. 看護実践場面での倫理的ジレンマ 4. 倫理的課題に取り組むためのしくみ		
	10		試験・まとめ		
テキスト	系統看護学講座 基礎看護学1 基礎看護技術Ⅱ (医学書院) 看護師の基本的責務(日本看護協会出版会)				
学習を支える情報					
評価	筆記試験で評価する。			筆記試験	100
				合計	100

科目名	臨床看護総論	単位(時間)	1(30)	28期生	DP
担当講師名	田中 恵 [看護師] 倉田 貴子 [看護師] 赤穂 美紀[看護師]			1年	1・2・4
				前期・後期	
ねらい	健康障害をもつ対象の状態に合わせた処置・検査時の看護を学ぶ。また、安全かつ安楽に実施できるための技術の習得をめざし、実践できるための技術の習得を目指し、実践する上での倫理的態度も養う。				
科目目標	①経過別看護および治療過程における基本的な看護を学ぶ。 ②呼吸・循環を整えるために必要な基礎知識と基本技術を学ぶ。 ③診察・検査・処置の介助に必要な基礎的知識と基本技術を学ぶ。 ④与薬をするために必要な基本的知識を理解し、援助技術を習得する。				
授業内容	次	単元	内容	担当者	備考
	1	経過別看護	1. 経過別看護の概念 2. 各期の特徴と看護	赤穂	講義
	2 3 4 5	呼吸・循環を整える看護	1. 酸素吸入法 2. 吸入 3. 吸引 1) 一時的吸引(口腔*・鼻腔*・気管) 2) 持続的吸引(胸腔ドレナージ) 4. 排痰ケア(体位ドレナージ) 5. 人工呼吸療法(人工呼吸器操作見学) 6. 体温管理 7. 呼吸・循環・体温調整のアセスメント	田中	講義 演習
	6 7	検査・処置時の看護	1. 検体の取り扱い (血液、尿、便、喀痰、胸水、腹水、髄液・髄液) 2. 穿刺時の介助 (胸腔穿刺、腹腔穿刺、腰椎穿刺、骨髄穿刺) 3. 診察・検査時の看護師の役割	田中	講義
	8 9 10 11 12 13 14	与薬時の看護	1. 薬剤の種類と与薬方法、効果の観察 (経口、吸入、点眼・点鼻、経皮、直腸内*) 2. 注射 (皮下*・皮内・筋肉内*・点滴静脈内*) 3. 輸血の種類と取り扱い方法 4. 輸血時の看護 5. 与薬における看護師の役割	倉田	講義 演習
	15	試験・まとめ			
	テキスト	系統看護学講座 基礎看護学3 基礎看護技術Ⅱ (医学書院) 系統看護学講座 臨床放射線医学 臨床検査(医学書院) 根拠と事故防止から見た基礎・臨床看護技術(医学書院)			
学習を支える情報	1. 健康障害の経過や診察・検査・処置の側面から臨床看護を学びます。 2. これまで学んだ「検査・治療」「薬理学」「基礎看護概論」「基本技術Ⅰ」「看護倫理」等の基礎知識をふまえ、対象にとっての安全・安楽を考慮した診療の補助技術を習得しましょう。 3. 呼吸が障害されている対象への看護を学ぶために、医療機器業者の協力を得て人工呼吸器の取り扱いを学習します。 4. *は演習を行います。				
評価	技術を伴う演習は、全て出席することが試験を受ける条件となる。			筆記試験	経過別(10)
					呼吸循環(30)
					検査処置(10)
				与薬(50)	
			合計	100	

科目名	基礎看護学実習	単位(時間)	2(90)	28期生	DP
担当講師名	赤穂 美紀 他 [看護師]			1年	1・2・3・4
				後期	
ねらい	<p>基礎看護学実習は各看護学実習の基盤となる実習です。この実習では、コミュニケーション力を養い、健康障害のある患者を理解し、願いを捉え、患者の状態や状況に応じた看護を学びます。</p> <p>患者の健康障害や治療、入院環境などが身体面・心理面・社会面に及ぼす影響を考え、生活がどのように変化したのか五感を働かせて捉えていきましょう。患者の願いを捉え、目標を共有しながら、健康回復に必要な看護を具体的に考えられるようにしていきましょう。看護師には患者を全人的に捉え、看護の視点で観察し、状態や状況に応じた援助を考えていく力がが必要です。また、安全・安楽・自立を意識し、看護師と共に実践しながら患者の状態に合わせた日常生活援助を学んでいきましょう。</p> <p>看護学生として、患者の看護に必要な報告・連絡・相談をしながら責任ある行動をとり、倫理観に基づいた行動や態度を身につけていきましょう。看護師には自ら考え、判断し、行動できる力が必要です。そのためにも、日々、自己の実践を振り返り、その体験の意味を考え、対象にとってより良い看護とは何かを探求し続けることが大切です。</p> <p>さらに、実習の中で、人と人との交流を大切に、看護実践を通して看護の喜びや自己の成長の喜びを体験していきましょう。</p>				
科目目標	健康障害のある患者を理解し、患者の願いを捉え、状態や状況に応じた看護を学ぶ。				
【実習場所】					
公益財団法人 柏市医療公社 柏市立柏病院 医療法人社団 協友会 柏厚生総合病院 社会医療法人社団 蛍水会 名戸ヶ谷病院					
【スケジュール・内容・方法】					
実習内容	日程	内容	方法	臨地・学内	
	1	基礎看護学実習オリエンテーション	・臨地の実習を効果的に行う準備をする。	学内	
	2	フロアオリエンテーション ビジョン・ゴールの設定 実習準備			
	3 4 5 6 7 8 9 10	病棟オリエンテーション 看護実習	・患者を1名受け持ち実習する。 ・日々の学習はポートフォリオとリフレクションノートに残す。	臨地	
	11 12 13	再構築	・体験の共有 ・再構築 ・発表会で学びを共有する。	学内	
	14	対話			
	学習を支える情報				
1. 実習要綱を熟読し、学習の指針であるルーブリックをもとに、ビジョン・ゴール・具体的な戦略を立てて実習に臨みましょう。 2. 基本技術Ⅰ・生活援助技術で学んだ知識・技術を復習し十分練習しておきましょう。 3. 基本技術Ⅱで学んだ看護の展開技術を実践で活かしましょう。患者は身体的状態も心理面変化していきます。患者に関心を寄せて関わり、日々の状態を捉え、思いに沿った看護を自ら考え実践することで、看護の喜びにつながっていきます。 4. 実習の中では患者をはじめ多くの人と相互交流しながら学習していきます。人との関わりの体験から人としての成長も目指しましょう。 5. 看護学生としての倫理観や責任を踏まえて行動し、自己の課題を解決する姿勢を持ちながら、主体的に学習していきましょう。					
評価概要	成績評価を受ける資格は、実習においては所定時間数の6分の5以上の出席とする。 実習評価は、実習要綱の評価基準に基づき、ルーブリックにより統合的に行う。 提出物の最終提出期限が守られない場合は、評価対象にならない。				